

# 日本人テニスプレーヤー（女子）の

## メジャートーナメント参加機会推進に関する研究

トップスポーツマネジメントコース

5010A313-8 佐藤 直子

研究指導：平田 竹男 教授

### 【I.序論】

#### 「日本テニス界の繁栄」

我が国は世界有数のテニス大国であり、かつては日本独自の軟式テニス（現在のソフトテニス）で育った選手（熊谷一彌、清水善造、佐藤次郎等）が硬式テニスに転向し、大活躍した。1920年第7回アントワープ五輪で日本初のメダルを、テニスが獲得したのである。

女子テニス界においては、1952年に初めてウィンブルドンに出場（加茂幸子）1975年にウィンブルドンのダブルスに優勝（沢松和子・パートナー：アン・キヨムラ《米国》）、1978年にはオーストラリアンオープンのダブルスで準優勝（佐藤直子・パートナー：パム・ホワイトクロス《オーストラリア》）など、世界のメジャートーナメントで活躍する女子選手が登場し始め、1995年には世界ランキング4位（伊達公子）に、2004年には8位（杉山愛）に入り、日本の女子テニス史に輝かしい足跡を残した。

#### 「日本テニス界の低迷」

2000年代始めをピークに、今日の日本テニス界は危機的状況に瀕している。2006年以降、成績が低迷しており、2009年にはトップ50にも入らないのが現状である。

テニス人口は激減した。1993年には約1300万人であったが2007年には約570万人に減り、再び2009年には750万人と一時増加を見せたものの、大幅な人口減となっている。また、テニス場の減少も著しい。

1992年から2001年にかけて、741の事業所が閉鎖されている。ナショナルテニスコートとして使用されていた朝日生命久我山テニスコート、会員権がゴルフクラブ並の高級テニスクラブ多摩川園ラケットクラブ等、名門テニスクラブの相次ぐ廃止も問題である。

#### 「筆者の立場」

筆者は日本プロテニス協会の第一号女性会員であり、プロテニスプレーヤーとして長期に渡り、世界の4大会をはじめとしたテニスツアーに参戦してきた。筆者の現役時代は、日本テニス界が繁栄していた時代であり、現在のテニス界の現状は見逃せない。

しかし、1970年 Women's Tennis Association (WTA) が設立され、女子プロトーナメントが組織化された。1984年 International Tennis Federation (ITF) の主催する ITF Women's Circuit が、WTA に出場できる選手を育成する役割や、女子テニスの発展の役割を担うことになる。1985年には ITF Regulation が策定され、すべての ITF 加盟国が Circuit に出場できるようになった。これを機に、女子の国際トーナメントの世界的な普及が進んだ。

筆者が自らスポンサーと契約交渉し、トーナメントディレクターに手紙を書いてウィンブルドンの出場交渉をした時代(1972)とは大きく異なる。世界ランキングシステムの整備をはじめ、日本人選手が世界に挑

戦出来得る環境は、目を見張るものがある。筆者は、日本テニス界の復活は、世界で活躍する選手を輩出することにあると考える。

#### 「目的」

本研究では、日本人テニスプレーヤーをWTAトーナメントに出場させる為に日本テニス界がとるべきITFトーナメントの発展策に関する示唆を得ることを目的とした。

### 【Ⅱ研究手法】

目的を達成する為に6つの視点から分析を行った。

- 1 ITFトーナメントの現状把握
- 2 WTAトーナメントとITFトーナメントの関係
- 3 Nation Strategy Metrics によるITFトーナメントと諸外国の関係
- 4 Nation Strategy Index によるITFトーナメントのレベルの比較
- 5 ITFトーナメントの開催時期
- 6 国内ITFトーナメント参加選手の意識調査

### 【Ⅲ結果】

ITFトーナメントについて、次のことが明らかになった。

- 1 ITFトーナメントは開催回数、賞金総額が拡大傾向にあること。
- 2 WTAトーナメントの予選のCut Offは、400位代200位代、100位代である。
- 3 近年ITFトーナメントで好成績を納めている国は、イタリアとロシアである。
- 4 10000ドルトーナメントでは、アメリカで開催される大会のレベルが低い。25000ドルトーナメントでは、日本、オーストラリア、ロシアで開催される大会のレベルが低い。

5 アジアはサーキット実施期間が、欧州、北米より短い。

6 ITFトーナメント出場の日本人選手の多くは、国内大会を中心に活動をしたいと考えていた。

### 【Ⅳ考察】

#### 1. ITFからWTAへのステップアップ

ITFトーナメントからWTAトーナメントへとステップアップする為には、3段階があると考えられる。第1段階は400位、第2段階は200位、そして第3段階は100位である。この基準を満たすと、WTAの予選や本戦に出場することができるのだ。

#### 2. NSMによる選手育成の分類

個人主導型 = ロシア・チェコ

協会誘導型 = イタリア・フランス

#### 3. NSIによるポイント獲得が容易なITFトーナメント

10000ドルトーナメント：アメリカ

25000ドルトーナメント：日本、ロシア、オーストラリア

#### 3. 今後の日本テニス界

##### 「逆台形モデル」

テニス界の意識を、ウィンブルドン・チャンピオンの創出だけでなく、マスコミ、経済界、指導者、審判など、あらゆる分野にテニスのコアなファン（ステイクホルダー）を作るという意識へと変えて行く。

##### 「トリプルミッション」

「勝利」「市場」「普及」の好循環を生むテニス界の理念を、「ノーブレス・オブリージュ」とした。この言葉は中世ヨーロッパの貴族に用いられた言葉であり、貴族は社会の模範となる振る舞いをするべきであるという意味だ。テニスプレーヤーは勝つことだけでなく、社会の模範となるように振る舞うべきである。